

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報 2018年11月1日 182号
世界平和地球村の建設と自然環境の保護

第18回国際協力青年奉仕隊・美しい公園を完成



みんなの力を合わせてトロパンパ村に完成したアイワ公園 (Jardin Aiwa) 2018年9月3日

トロパンパ村に、夢を育む公園が完成！

第十八回国際協力青年奉仕隊は、去る八月二十五日に日本国内の集合地でオリエンテーションを受け、翌二十六日に成田空港を発ちました。一行は、男子八名と女子七名からなる十五名の若者たち。もう一名の男子が参加する予定だったのですが、出発直前に事故で負傷したため、完全な治癒を待ち、十月下旬より中期ボランティアとしてレダに赴きました。

パラグアイに到着した奉仕隊はまず、メノー教徒移民が内陸の不毛地帯に建設した町、ロマ・プラータを訪れました。苦難の連続でも希望を見失わずに奮闘した先駆者たちの開拓史を学び、彼らが実現した清潔で豊かな町や工場を見学しました。そして翌日、四駆車五台を連ねて、凄まじい砂塵の立つ道を約六時間走り、トロパンパ村に入りました。五年前、第十三回奉仕隊が学校舎の修繕に汗を流した、人口千人ほどの貧しい村です。

今回の奉仕隊プロジェクトのメイン活動は、村の空き地に公園を完成すること。子どもたちが楽しく安心して遊べる公園を持つことは、トロパンパの住民たちの長年の夢であり、今年私たちに実現への協力を依頼してきました。村には、すべり台のようないいという思いから、このプロジェクトが始まりました。

不毛地帯に建設した町、ロマ・プラータを訪れました。苦難の連続でも希望を見失わずに奮闘した先駆者たちの開拓史を学び、彼らが実現した清潔で豊かな町や工場を見学しました。そして翌日、四駆車五台を連ねて、凄まじい砂塵の立つ道を約六時間走り、トロパンパ村に入りました。五年前、第十三回奉仕隊が学校舎の修繕に汗を流した、人口千人ほどの貧しい村です。

今回の奉仕隊プロジェクトのメイン活動は、村の空き地に公園を完成すること。子どもたちが楽しく安心して遊べる公園を持つことは、トロパンパの住民たちの長年の夢であり、今年私たちに実現への協力を依頼してきました。村には、すべり台のようないいという思いから、このプロジェクトが始まりました。



楽しさを増してくれました。午後は再びバスを乗り継ぎ、深夜のアスンションに戻つて来ました。

【9月11日】青年奉仕隊として最後の活動日を迎えるに至りました。この日の午前中は、パラグアイで最も発行部数が多いという、ABC（アーベーセー）新聞社

イグアスの滝、ブラジル側の遊歩道橋。水煙が濃い。
（9月10日）島の公園に隣接する、世界自然遺産イグアスの滝は、創造していい以上に雄大でした。落ちる水の勢いは激しく、滝から少し離れた場所でも水しぶきが濃い霧となつて、みな全くなつて、みんな濡らすほど。「悪魔のど笛」と呼ばれる恐ろしく豪快な滝壺を覗くと、きれいな虹が出で、



国を訪れ、先人たちの遺産を大切にしている国だということがよく分りました。最後の夕食は和食レストランに行き、美味しくいただきながら、一人一人がこれまでに感じた

A photograph showing a group of approximately 15 young people, likely students, gathered around a long wooden conference table in what appears to be a school or community center. They are all facing towards the right side of the frame, where a person is seated at the head of the table, presumably conducting an interview. The room has large windows in the background, and a yellow banner with the letters 'abc' is visible on the wall. The atmosphere seems focused and engaged.



サンパウロに向かいました。【9月14日】途中美で日付が二度変わった。長い空気よく成田空港に到着しました。最後の瞬間に心を尽くし合う仲間の旅を終え、元氣で、道中を無事に守つてくださった神様、レダの皆様、トロパンパの皆様、篤いご支援を送つてください。さつた皆様に、心から感謝いたします。

ことを言葉にして共有し合ふ。日本に帰つてからどう歩んでいかを真剣に考えるひと時となりました。

【9月12日】今日はいよいよ日本に旅立つ日。この期間、休む間を惜しんで奉仕隊プロジェクトのために全力投球してくださった佐野先生、中井先生、岩澤先生たちは、私たちの姿が見えなくなるまで見送つてくださいました。各人それぞれ、言い尽くせない思いを胸に抱きつつ、アスンション国際空港を飛び立つ。



鉄道博物館で、旧い食堂車に乗る。

を表敬訪問しました。トロパンパでの奉仕活動を記事にしてくれるそうで、私たち奉仕隊を代表して、男女各一名が記者の質問を受けました。暗いニュー

